

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078400092
法人名	医療法人 八女発心会
事業所名	グループホーム舞風台 (ユニット名 さくら・さつき・かえて )
所在地	福岡県八女郡広川町大字水原1498
自己評価作成日	平成25年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年9月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広川町が見渡せる高台の広大な敷地の中に建設されたグループホーム舞風台は、春夏秋冬の夫々の季節が身近に感じられ、完全バリアフリーの施設からは簡単に戸外に出ることができます。遊歩道からの眺めは住み慣れた地域を見渡すことができ、安心して生活していただくことができます。近くには町立の保育園があり、定期的に園外保育の訪問をして頂いています。また、法人内にはリハビリ専門学院があり、学生の実習を通してふれあいやゲームを楽しんで頂くことも出来ます。年間行事も各種花見見学会等開催され、入居者の皆様に喜んでいただいております。法人内には地域医療を主眼にした姫野病院があり、同じ敷地内には介護老人保健施設も併設されており、医療連携も十分にとれて、安心して生活できる施設です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本一広大な敷地に建つ事業所は自然に囲まれ、四季折々の景観と木々の香りに満ちた環境で、法人の介護老人保健施設と通所リハビリテーション事業所に隣接する3ユニットの事業所である。事業所の理念である「やすらぎ・思いやり・連帯・地域密着」を掲げ、「相手を尊重し、ゆっくり優しく、丁寧な支援を行い、利用者と家族に安心と信頼を提供する」を全職員で共有し、理念の実践に繋げていけるよう取り組んでいる。事業所の行事で9月に敬老会、12月にクリスマス会、忘年会、餅つきをしており、地域の方や家族を招待し交流を深めている。敷地内には花畑や野菜畑、高台には芋畑もあり、地域や家族によるボランティアが世話をしており、焼き芋会等は利用者の楽しみとなっている。外部講師による勉強会が毎月2回開催され、生活リハビリを取り入れた介護を行っている。講師の提案により、利用者一人ひとりにあったテーブルと椅子を購入し、生活リハビリに繋げる予定である。地域住民も高齢化しているため、災害時の避難場所として事業所が頼りにされている。地域にとって散歩コースにもなっており、事業所の存在は、今後も更なる期待できるところである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を中央Dルームと各ユニットの良く見える所に貼り、毎朝朝礼の最後に唱和している。	朝礼時に職員は理念の唱和に加え、週1回は運営母体の理事長による理念に沿った内容の講話が行われている。職員は常に意識をもって日々のケアに反映できるように思いやりを持ち相手のペースに合わせて会話や行動ができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し地域の道路愛護等に参加したり、施設の行事があるときは参加をしている。	利用者も加齢に伴い心身の機能の低下が進み、地域の行事に参加することは少なくなっているが、施設の敷地は地域の方の散歩コースでもあり、利用者と一緒に、お茶の接待や会話を楽しんでいる。また、職員は、地域の道路周辺の草刈やゴミ拾いを行っている。施設の行事には地域の方にも参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアや学生さんの職場体験等を受け入れて認知症の人の理解や支援方法等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回実施し、施設の状況を報告、また、地域や役場の方からのお話も伺っている。	運営推進会議は奇数月に開催され、利用者代表、家族代表、区長、民生委員、保育園理事長、役場職員、施設長、管理者、ケアマネジャー、事務長が参加している。利用者の現状報告やヒヤリハット報告を行い、区長より地域行事の案内があり、役場職員からは災害時のハザードマップについての説明があっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当者の方にも、運営推進会議に参加して頂いており、様々な事柄の問題についての問い合わせをしたり、相談にのって頂いている。	事業所の空室状況を尋ねられたり、認知症サポーター養成講座の講師を引き受けたり、介護保険制度についてわからない事は相談している。利用者の知り合いである独居の方が毎日のように大量のジュースなどを持って来られていたため役場に報告し、認知症の初期症状ではないかと相談したことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で毎月(身体拘束廃止委員会)を開いており、勉強会や発表を行って全員が周知している。	法人の身体拘束廃止委員会で毎月勉強会があっており、各ユニットの職員に伝達研修を行い、正しく理解している。深夜以外は施錠がされておらず、利用者は自由に入出りでき、早朝に外でお日様を拝む方もおられる。言葉の拘束についても、職員間で注意しあえる雰囲気が出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修や発表を通じて周知徹底を図ったり、言葉使い等は日頃より注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の職員研修で学ぶ機会があり必要時職員間で話し合っている。又、希望者は地域で行われる学習にも参加している。	法人の勉強会で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会があり、出席できなかった職員は資料を基にレポートを出すことで、どういった利用者に必要な制度であるかは理解している。家族へは事業所内のロビーに掲示しており、現在、1名の方が利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定の際には、文書を郵送し、契約の際に十分な説明を行っている。疑問や不安があれば納得・安心していただけるように対応をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時・入所者様の近況をお話し、意見や要望等をもとに対応している。	家族会はないが、家族の訪問時や、利用者の忘年会に家族も参加してもらい意見や要望を聞くようにしている。利用者からは日々の会話の中で、食べたいものや外出したい所について聞き取りをしたり、意見や要望を聞き取ったりして、希望に添えるように努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々職員の意見や提案を聞く機会を設けてる。毎月の定例会では、職員それぞれの意見や提案を話し合い反映させている。	運営に関する意見や提案は毎月の定例会で提案している。今年度は無記名でのアンケートで要望を出せる機会があり、法人より全職員の個人面談も行われている。入浴時の浴槽の縁に付ける回転台購入について要望を提出し、前向きに検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時、情報提供をし、勉強会等の受験対策をしている。新しい介護法を取り入れ職員の負担軽減となり、入所者様にも安全で負担のない様に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたり性別や年齢等に特に条件はつけず職員についてはそれぞれ得意分野で能力を活かせる様に配慮している。	職員の採用にあたっては性別・年齢等を理由に排除していない。職員の特長である歌や趣味を活かした働きやすい環境である。また、公休日は希望を取り入れた勤務表になっており、休憩も取りやすい環境である。資格取得時にも優先的に配慮がなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の職員研修・朝礼等で講和を聞く場を設けている。又、業務の中で職員間で注意しあう体制ができています。	法人での勉強会がっており、毎週水曜日の朝礼時には人権教育についての話が行われている。利用者の名前は名字で呼んでおり、声掛けについても各ユニットで掲示し、適切な声掛けになるようお互い気を付けあえる環境に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH部会や併設している老健との研修等で技術向上を目指している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会等での他施設との交流で他施設の取り組みを参考にし職員の質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の情報をもとに生活の中に支援を取り入れ様努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との会話の場を多く持ち信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族に対する傾聴、スタッフ間での打ち合わせ等で支援を見極める様努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを第一に関係が築ける様に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の情報を共有する事で共に支え合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が希望し、意思表示があれば、援助している。	携帯電話を所持している方は、家族に電話をかけたり、ホームの公衆電話を使用したりして繋がりを持つようになっている。帰宅願望がある利用者には、家族と職員も一緒に外出して写真に残し、安心してもらっている。友達の訪問がある時には、お茶を出したりして馴染みの関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや行事参加できるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や併設の老健に入られている場合は面会することもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時ご家族にも現状をお話しし、その中で意向の聞き取りを行い、希望に添えるよう努めている。	入居前に本人、家族、関係者から情報を得ている。又、日常生活の会話の中から希望や意向の把握に努めている。困難な人には、表情やしぐさを観察したりしながら本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りやこれまでの施設等との連携に努め今までの生活が継続できるよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りにて現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別ケアを把握し、プランに反映している。	職員は担当制で、月1回の定例会議やユニット会議の中で、全員の意見を出し合ったり、皆で話し合う機会を設けている。本人・家族の意向を確認し、主治医にも受診の際に意見を求めて介護計画を作成している。状態が変われば介護計画の変更を行い、現状に即した介護計画書を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケアプラン実行表へ個別に記入。職員間での情報の共有や話し合いにより、より良い介護へと努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時家族が同行できない場合スタッフが付き添っている。終末期の御家族の泊まり込みも受け入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の園児さん達の慰問や地域の方の歌や踊りを楽しまれたり、面会も喜ばれている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様にご本人の変化や最近起こった事を報告し、御家族の方の希望の病院へ申し送りを徹底し、適切な医療へ結びつく役割を果たしている。	本人や家族の希望でかかりつけ医を決めている。家族が受診同行できない時は、職員が同行し受診後家族に結果を報告したり、協力医にも報告し、病院間でも連携が取れるようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の訴えや、傷等あれば状態を把握し看護師へ報告し、適切な処置・受診指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーへ連絡し状態把握に努め、医師と相談の上退院時期を検討(早期退院)しADLのレベル低下を防いでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所されて間もなく、家族との話し合いの場を持ち意向を確認している。御家族の希望を尊重し、支援し対応している。	これまでの看取りの経験を活かして、契約時に説明し本人家族の意向を確認している。また、家族の気持ちの変化にも柔軟に対応している。家族が居室での看取りを希望したときは、布団や食事の提供も行えるように準備がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事応急マニュアルがあり、職員は定期的に訓練を行っている。消防署からの指導の下AEDの使用法の周知徹底にも努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルがあり、年二回消防署指導の下、避難訓練を実施している。又、非常食準備等もできている。	今年2回目の避難訓練で11月に夜間想定で実施の予定である。各室にスプリンクラーが設置されている。消火器の操作方法や避難経路は職員全員が周知している。非常食や水の備蓄もあり、広大な敷地は自然災害時の地域の避難場所として提供されるようになっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けで対応している。個人記録等は第三者の目につかないところに保管し情報を用いる時は同意を得ている。	週1回職員に対する講話の中で、尊厳についての講話もあり、教育を行っている。他者にわからないようにそばでそっと声かけをしたり、トイレのカーテンを必ず閉めるなど徹底している。言葉についても人格を尊重した声かけを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でコミュニケーションを行い入所者の思いや希望を理解し、方向性を指示し自己決定できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者の希望を聞きながらも、生活機能が低下しない様に一人ひとりのペースに合わせた声掛けや、支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回、又は二ヶ月に一回訪問理美容利用をして頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者に応じて食事形態を変えたり、自分で食べる喜びがもてる様に一人ひとりに必要な福祉用具を考え自立支援できるよう努めている。	利用者はテーブルを拭いたり玉ねぎの皮をむくなどの下準備をしている。近隣、家族から頂いた野菜や、敷地内で作った作物を利用して、季節感のある食事の献立作りを行っている。職員も一緒に食事をして、会話を楽しんでいる。嫌いな食べ物がある場合には代替りの物を出したり、会話の中から希望を聞いたりして、献立作りにも参加してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に個人にあった量を摂って頂く様努めている。必要な方には介助もやっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でされる方においても、磨き残しがないか口腔内に食べかすが残っていないか見守り介助を行っている。又、口腔委員会においてチェックシートを作成し歯科衛生士さんによるアドバイスを受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、重度の方も全員トイレ誘導しトイレで排泄できる様に支援している。	入院時にオムツを使用していた方が、関わりによって夜間はリハビリパンツ、昼間はショーツに変更することが出来た事例がある。排泄表を作成しトイレ誘導をすることで、日中のオムツ着用者がいない状況になっており、自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維が沢山摂れる様献立作成時配慮している。又、朝の体操・午後からの個別のリハビリ・下剤による排便コントロールを行い便秘を予防している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個人的な希望があれば希望に添える様にしている。	週2回入浴日を決めているが、希望する人にはいつでも入れるようにしている。大浴場と個浴とが楽しめるように浴室は3箇所ある。入浴剤を使ったりして温泉気分を味わってもらうこともある。入浴を拒否する場合は無理強いすることなく、更衣だけをしたり、時間を置いてから声をかけたりして工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室ベットやDルームのソファにて各人が好きな場所で好きな時間気持ちよく休憩できる様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方箋に眼を通し、薬の作用・副作用・用法・用量等を理解する様に努めている。変化があれば看護師か掛かりつけ医の指示を仰ぐ様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が好まれる物を準備したり、他入所者との交流を深めて頂ける環境作りに努めている。又、本人様の力を活かした役割を持った生活作りを支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族に通院や気分転換の為の外出協力支援をお願いしている。行事として道の駅や季節の花の見学や、おやつを食べにファミレスなどに行くこともしている。	毎日、敷地内は自由に出入りができ、季節の花や野菜畑の中を散歩して楽しめるようになっている。月1回は外食や花見などを楽しんでいる。敷地内の高台にサツマイモ畑があり、焼き芋会等も楽しみの一つとなっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて小額のお金を所持して頂き、移動販売等で買い物ができる機会を作っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話を取り次いだり、希望される時には電話ができる様に支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに室内の装飾を変えている。畑に季節の野菜や花を植え、育て季節感を味わえる様に努力している。	壁には、パッチワークのタペストリーや、出入りに絞りに染めの暖簾などがあり落ち着いた雰囲気を作り出している。利用者や職員で共同制作した季節感のある壁掛けも家庭的な印象である。庭は広く、各所に季節の花や野菜が植えられており、四季を感じる工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームにソファがあり、食後や寛ぎの時間や新聞・雑誌を見られたりと自由に過ごされている。テーブルの配置を考え気の合った入所者同士で過ごせる様に工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や、椅子・棚等使い慣れた物を自由に持ち込んで頂いている。	各室は居間から放射線状に配置しており、窓から明るい光が差し込んでいる。畳で寝たい場合にも用意されている。居室に位牌を持ち込んでいる方もおり、使い慣れたものを自由に配置してもらっている。	訪問時に、居室の入口に個人使用の物品等が置いてあったが、出入りの支障になりにかぬないことと、プライバシーへの配慮の観点からも、収納について、今一度、検討する機会を持つことを期待したい。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内板を設置したり、ベット等も本人に合わせた安全で使い易い環境作りに努めている。		